

# 平成28年度博物館施設評価集計シート（最終）

施設名 近代美術館

## 1. 数値目標による評価 (1) 全館共通項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	235,470	人	達成	前年度実績(過去5か年の実績から最高・最低値を除いた平均と前年実績との比較)	
				247,435	人		4月 18,874人、5月 23,121人、6月 29,380人、7月 20,387人、8月 22,177人、9月 17,793人、10月 25,766人、11月 20,546人、12月 13,107人、1月 15,293人、2月 17,745人、3月 23,246人	
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	43,770	人	未達	前年度実績(過去5か年の実績から最高・最低値を除いた平均と前年実績との比較)	
				39,560	人		H27 4期 657人、H28 1期 9,615人、2期 12,165人、3期 8,946人、4期 8,177人	
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	1,950	件	達成	前年度実績(過去5か年の実績から最高・最低値を除いた平均と前年実績との比較)	
				2,188	件			
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	56,246,000	円	未達	当該年度予算計上額	
				45,852,258	円			

## (2) 館別独自項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	企画展	入館者	企画展の観覧者数	52,000	人	未達	過去の企画展実績をもとに設定	
				35,459	人		ラルティーング 7,244人、竹岡展 6,678人、NVS5 5,814人、キュビズム 9,443人、カッサンドル展 6,280人	
2	学校との連携	学校利用	学校団体の美術館利用校数	94	校	未達	平成27年度実績	
				83	校		4月 2校、5月 6校、6月 17校、7月 8校、8月 22校、9月 3校、10月 6校、11月 8校、12月 3校、1月 2校、2月 3校、3月 3校	
3	学校との連携	授業協力	学校での鑑賞授業の回数	47	校	未達	平成27年度実績	
				39	校		5月 2校、6月 2校、7月 4校、8月 1校、9月 4校、10月 2校、11月 4校、12月 3校、1月 4校、2月 8校、3月 5校	
4	子供向け事業	MOMASの扉	MOMASの扉開催回数及び参加人数	50回4436人	回	未達	平成27年度実績	
				51回2838人	回			
5	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	615	件	未達	平成27年度実績	
				606	件		4月 68件、5月 51件、6月 44件、7月 62件、8月 72件、9月 58件、10月 54件、11月 41件、12月 44件、1月 41件、2月 32件、3月 39件	
6	利用状況	インターネットの活用	年間HPアクセス件数	817,918	件	未達	平成27年度実績	
				811,373	件		4月 67,612件、5月 80,066件、6月 52,251件、7月 64,277件、8月 80,753件、9月 58,101件、10月 60,434件、11月 63,016件、12月 50,675件、1月 85,633件、2月 67,256件、3月 81,299件	
7	広報	広報成果	印刷媒体での掲載件数	365	件	未達	平成27年度実績	
				315	件			
8	満足度	MOMASコレクションアンケート	アンケートでのMOMASコレクション常設展満足度	92.0	%	達成	平成27年度実績	
				93.5	%		第1期満足度95%、第2期93%、第3期92%、第4期9	
9	満足度	企画展アンケート	アンケートでの企画展満足度	95.8	%	未達	平成27年度実績	
				93.8	%		ラルティーング 99%、竹岡展 86%、NVS5 91%、日本におけるキュビズム 94%、カッサンドル展99%	

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<p>1 企画展「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」の実施(4/5～5/22) 幼いころから写真を撮り続け、ユニークな視点の作品や、家族と友人の幸せな姿を写した作品などを通して、写真を楽しみ、人生の喜びをつかまえようとしたフランスの写真家ラルティエグを紹介する。</p> <p>2 企画展「竹岡雄二 台座から空間へ」の実施(7/9～9/4) 国際的な舞台上で活躍するドイツ在住の美術家・竹岡雄二の作品を紹介する。この展覧会は、埼玉県内の遠山記念館との同時開催。</p> <p>3 企画展「ニュー・ヴィジョン・サイタマ 5」の実施(9/17～11/14) 埼玉ゆかりのアーティストに焦点をあてるシリーズ企画の5回目。80年代生まれの若手作家7名の近作や新作で構成する。</p> <p>4 企画展「日本におけるキュビスムーピカソ・インパクト」の実施(11/23～1/29) モチーフを幾何学的に解体、再構成するキュビスムは、ピカソらによって生み出されました。大正から戦後間もない時期にかけての日本におけるキュビスムの展開を探る展覧会。</p> <p>5 企画展「カッサンドル展」の実施(2/11～3/26) 広告美術に大きな影響を与えた20世紀を代表するグラフィック・デザイナーであるカッサンドルのポスター芸術を代表作でたどる。</p>
事業の実施状況と過程	<p>1 企画展「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」(4/5～5/22)では、7,244人の方々に観覧いただいた。</p> <p>2 企画展「竹岡雄二 台座から空間へ」(7/9～9/4)では、6,678人の方々に観覧いただいた。</p> <p>3 企画展「ニュー・ヴィジョン・サイタマ 5」(9/17～11/14)では、5,814人の方々に観覧いただいた。</p> <p>4 企画展「日本におけるキュビスムーピカソ・インパクト」(11/23～1/29)では、9,443人の方々に観覧いただいた。</p> <p>5 企画展「カッサンドル・ポスター展 グラフィズムの革命」(2/11～3/26)では、6,280人の方々に観覧いただいた。</p> <p>6 県内の美術館、さいたま市の事業(さいたまトリエンナーレ)と連携した事業展開を図った(竹岡雄二展、ニュー・ヴィジョン・サイタマ 5)。</p> <p>7 企画展「竹岡雄二 台座から空間へ」(7/9～9/4)の開催期間中、夏割、タケオカ割を実施し、来館者の確保を図った。</p> <p>8 スマートフォンアプリを活用した展示解説サービスを、MOMASコレクション展において、試行した。</p> <p>9 スマートフォンアプリを活用した広報、新規来館者の開拓を行った。</p> <p>10 企画展「ニュー・ヴィジョン・サイタマ 5」(9/17～11/14)では、期間限定で、JRの車内広告(トレインチャンネル)を実施した。</p> <p>11 企画展「日本におけるキュビスム」(11/23～1/29)では、新聞・雑誌への広告の掲載を行った。</p>
事業の成果	<p>年間利用者数は、目標を超える247,435人の方に利用していただくなど、多くの方に入館等をしていただいた。</p> <p>常設展及び企画展の観覧者数は、目標を達成することができなかったが、ジャック＝アンリ・ラルティエグ展、日本におけるキュビスム展及びカッサンドル・ポスター展については、図録が完売(ジャック＝アンリ・ラルティエグ展644冊、日本におけるキュビスム展833冊、カッサンドル・ポスター展1362冊)するなど、好評を博した。</p> <p>スマートフォンアプリを活用した展示解説サービスを試行した結果、概ね好評であったことから、29年度から常設展示において正式に導入することとなった。</p> <p>常設展及び企画展のアンケートの満足度は、それぞれ93%を超え、高い満足度を得ることができた。</p> <p>学校との連携事業、子供向け事業については、目標値の達成はできなかったが、多くの利用・参加があり、美術への関心、美術館利用のすそ野を広げることができた。</p>

基礎データ

職員数 (学芸員数)	22人 (10人)	総予算額 (人件費を除く)	198,914,000円	職員一人あたりの県民人口	330,382人
収蔵資料総点数 (H28.3末現在)	3,407点	事業経費 (上記の内数)	153,878,000円	利用者一人あたりのコスト (平成27年度)	799.6円
平成27年度 収集資料点数	55点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	56,246,000円 (27,998,000円)	県民人口に対する利用者割合 (平成27年度)	3.24%

(注)平成28年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,268,405人である

2. 全館共通項目チェックリスト

近代美術館

評価基準	
完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか	A	埼玉県立美術館 美術資料収集基本方針
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか	A	同上
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか	A	同上
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか	A	同上
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか	A	美術資料取扱規程による
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	A	美術資料選考評価委員会による
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか	A	美術資料取扱規程による
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか	A	同上
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し管理しているか	A	同上
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか	A	燻蒸消毒の実施
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収蔵作品の保存管理要領による
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	同上
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	同上
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	同上
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	A	同上
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	同上
	⑦ 資料の殺虫殺菌処理を適切に行っているか	A	同上
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	同上
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	A	同上
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	同上
	⑪ 資料の劣化状況を定期的に確認しているか	A	同上
	⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	A	同上
	⑬ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	A	美術資料取扱規程による

項目	チェック内容		評価(A~C)	備考
資料の保存管理	⑭	資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	同上
	⑮	収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑯	収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	B	同上
	⑰	収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	①	収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	同上
	②	収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	B	関連例規集のweb公開
	③	収蔵資料を展示に活用しているか	A	MOMASコレクション展
	④	収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	
	⑤	収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	
	⑥	資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	
	⑦	収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	展示替えごとに実施
常設展示	①	資料の展示環境を適切に管理しているか	A	
	②	展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	情報量・文字サイズ
	③	展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	
	④	展示情報を適宜修正・更新しているか	A	
	⑤	展示設備等を適宜点検しているか	A	
	⑥	展示ガイド等を作成しているか	A	展示更新ごとに改訂
	⑦	解説リーフレット等を作成しているか	A	展示更新ごとに改訂
	⑧	展示解説等を適宜実施しているか	A	ボランティア・学芸員
	⑨	観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	来館者アンケートの実施
	⑩	アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	アンケートの集計・分析
	⑪	県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	HP・イベントチラシ
学習支援事業	①	事業情報を利用者に広く発信しているか	A	印刷物、HP、SNS等
	②	多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	ハガキ、電話・fax、メール等
	③	多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	A	一般、子供(未就学児)
	④	参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	ボランティアスタッフの配置

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
学習支援事業	⑤ 事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	ボランティアの配置、注意喚起
	⑥ 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	アンケートの実施
	⑦ アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	B	アンケートの集計・分析
	⑧ 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	資料閲覧室・チャリコーナーの設置
	⑨ 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	学芸員実習及びインターンシップ受け入れ要綱
県民との連携・協働	① ボランティア制度を導入しているか	A	展示解説ボランティア、イベント対応等
	② ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティアの種別ごとに整備・運営
	③ ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティアの種別ごとに整備・運営
	④ ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	ボランティアの種別ごとに整備
	⑤ ボランティアの活動成果が公開されているか	A	HP及び年報での活動報告
	⑥ 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	A	レセプション参加、SMFとの連携
	⑦ 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	A	地域の商店会のイベントに協力
調査研究活動	① 調査研究テーマを定めているか	A	事務分掌表で明示
	② 調査研究のための予算措置等に努力しているか	B	既定予算内で対応
	③ 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	専門研修に参加
	④ 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	展覧会ごとに図録等を作成
	⑤ 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	もの派アーカイブ事業(文化庁助成)に参画
	⑥ 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	企画展・MOMASコレクション実施にあたり調査
	⑦ 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	展覧会ごとに図録等を作成
	⑧ 他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	美術館連絡協議会等における展覧会共催
	⑨ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	展覧会ごとに研究成果を発表
	⑩ 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	出前講座等への職員派遣
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	毎年度策定
	② 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	テグス止め等
	③ 危機管理マニュアルを整備しているか	A	毎年度更新
	④ 防災・救急訓練等を定期的実施しているか	A	毎年度実施
	⑤ 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	A	レストラン設置 授乳室設置
	⑥ レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車椅子5台 ベビーカー5台

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考	
施設・アメニティー	⑦	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設設備点検の実施
	⑧	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用3台
	⑨	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	A	点字ブロック、エレベータ、自動ドア等
	⑩	利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	A	エントランスに設置
	⑪	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	B	英文の施設案内を活用
	⑫	利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	10:00~17:30
	⑬	便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	公園路を利用しバス駐車場を確保
施設の利活	①	施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	各種利用要領、利用案内等
	②	施設利用のための情報を公開しているか	A	HPで利用案内を公開
	③	施設を一般の利用に提供しているか	A	一般展示室、講座室等
	④	施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	一般展示室、講座室等
	⑤	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	A	SMF事業等において活用
	⑥	地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	A	県展開催期間中の割引等

3. 館別独自項目チェックリスト

近代美術館

				評価基準		
				完了または順調に進捗していて問題がない状態	A	
				着手状態乃至課題が残されている状態	B	
				未着手状態	C	
項目	チェック内容			評価(A~C)	備考	
展示事業の実施	①	展示観覧者アンケートを実施し、満足度を測定しているか			A	
	②	展示観覧者の目標数を設定し、その達成に努力しているか			A	
	③	企画展の理解を深めるため学芸員による展示解説、講演会等を適宜実施しているか			A	ギャラリートークを実施
	④	展示内容に即した弾力的な広報活動を実践しているか			A	広報紙の内容・印刷物配布先の見直し
	⑤	外部資金の導入に努力しているか			A	竹岡展
教育普及及び連携・支援活動の実施	①	収蔵作品の理解を図るため学芸員による解説等を適宜実施しているか			A	学芸員による解説を実施(月1回)
	②	美術に対する理解を深めるテーマを設定した事業を適宜実施しているか			A	MOMASの屏、美術館講等の実施
	③	授業や部活などの受け入れ体制を整備しているか			A	授業、部活、インターンの受け入れ
	④	教員の資質向上を目的とした研修を実施しているか			A	教員美術講座、美術館利用研究会
	⑤	館職員を学校へ派遣し授業協力を実施しているか			A	複製画による鑑賞授業の実施
	⑥	教育普及用資料の貸し出しを実施しているか			A	複製画、鑑賞キット、アートカードの貸出
	⑦	大学教員と協働しながら学生を適切に指導しているか			A	埼玉大学との授業連携等(単位認定)
地域・他機関との交流・協力事業の実施	①	地域・他機関との交流・協力事業を実施しているか			A	地元商店街、自治会との事業協力
	②	企画展等を通じ国外美術館等と相互交流を図っているか			A	ラルティーク展、竹岡展

平成28年度 博物館施設 総合評価（最終）

施設名 近代美術館

		達成	未達	
全館共通	数値目標による評価	2	2	
各館独自	数値目標による評価	1	8	

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	85	5	0
各館独自	チェックリストによる評価	14	0	0

自己評価総括

評価	<p>利用者数は順調に推移しているが、常設展及び企画展の観覧者数については、目標値の達成ができなかった。</p> <p>しかし、常設展及び企画展のアンケート満足度は、93%を超えており、高い水準を維持している。また、ジャック＝アンリ・ラルティエグ展、日本におけるキュビズム展及びカッサンドル・ポスター展については、図録が完売するなど、多くの観覧者の方々の好評を博した。</p> <p>また、普及事業の参加人数等も目標達成ができなかったが、平成27年度はリニューアルオープンしたことによりイベント等が多数開催され普及事業等の参加人数が多かったことも目標を達成することができなかった要因であると考えられる。</p>
課題	<p>美術館の来館者数は順調に増加している。また、公園を訪れる方も大規模改修工事以降増えている。しかし、その方々に常設展や企画展の観覧者、普及事業への参加にはつなげることができなかった。</p> <p>公園を訪れる方を含めて、美術館の利用者を増加させていくため、今後も魅力ある事業を実施していくこと必要である。</p> <p>また、これまで埼玉県美術館を訪れることのなかった方々を利用者として開拓していくことが必要である。</p>
対応の方向	<p>魅力ある展示を企画、実施し来館者の確保を図る。</p> <p>学校と連携した事業や子供向け事業の充実を図り、利用者のすそ野の拡大を図る。</p> <p>SNSを活用した情報発信を積極的、効果的に行い、利用者増につなげていくとともに、利用しやすい美術館を目指し、情報機器を活用した展示ガイドの実施など、利用者サービスの充実を図る。</p> <p>また、新たに「ぐるっとパス」に参加することにより、これまで当館に来館することがなかった方々の獲得を目指す。</p>

## 評価結果に対するコメント

### 1. 全体に係る評価

各館協議会・委員会の意見

- ・数値目標はもちろん指標だが、展覧会に関してはその時の話題性や風潮みたいなもので一気に増えて、予想以上にお客様が入ってしまう展覧会がある。それがずっと負債みたいに評価を苦しめるといのはおかしいのではないか。
- ・すべての数値目標が前の年を超えていかなければならないということではない。
- ・その時その時の事業の内容と展覧会のラインナップを見て、実態に合わせて設定すべきである。たとえば、デザイン系の展覧会であれば10年前はこれくらい入った展覧会があったとか、ジャンルごととか、利用率の設定がなされるとよい。

### 2. 全館共通項目に係る評価

評価小委員の意見

- ・興味ある展覧会の開催に注目しているが、入館者数ほか常に右肩上がりの数値実績を積んで行くことには無理がある。去年よりここがよかったといえることを積み重ねていくことが大事である。
- ・「数値目標による評価」では、「利用者数」と「事業情報の発信」が目標値を超えた一方で、「常設展観覧者」と「経営努力」は目標値を下回っている。しかし、常設展・企画展の満足度は高く、図録も完売している。したがって、自己総括で述べられているように、リニューアルに伴う普及事業への参加者の多さが、目標値を下回った項目と関わっていると判断できる。
- ・「全館共通項目リスト」では、全90項目中85項目がA(完了)、5件がB(課題有)であり、資料収集・保存・研究、展示、県民との連携、学習支援といった博物館が担う使命は十分に遂行していると判断できる。
- ・B(課題有)となった5件が、リニューアルオープンと関連しているならば、平成29年度以降、さらなる充実に向かうと見通される。
- ・スマートフォンアプリによる展示解説を導入し、今後「ぐるっとパス」に参加するなど、新規来館者の獲得や来館者の展示品理解の手助けとなる「利用しやすい博物館」を目指していることがうかがえ、高く評価できる。「施設・アメニティー」の項目からも来館者の多様性をふまえた館運営を実施していることがうかがえる。